

平成 26 年度第 2 回京都市図書館協議会摘録

○日 時：平成 27 年 3 月 5 日（木）

午前 10 時～12 時

○場 所：京都市生涯学習総合センター 3 階第 3 研修室 A

○出席委員：[10 名中 10 名出席]

五島 邦治 委員

角谷 真子 委員

谷口 順子 委員

永田 信一 委員

初田 英人 委員

藤田 治久 委員

細矢 希代恵委員

丸尾 勝 委員

柳田 紀子 委員

山下 純夫 委員（五十音順）

○傍 聴 者：なし

1 開会

(1) 委員紹介

(2) 中央図書館長の挨拶

2 報告事項

事務局から資料に基づき以下の項目について報告した。

(1) 平成 27 年度子ども読書の日記念事業について

平成 27 年度の子どもの読書の日記念事業は、4 月 11 日（土）から 23 日（木）の 2 週間にわたり、小中学校、各種団体の協力のもと実施する。

メイン事業としては、詩人の谷川俊太郎氏を招いて、座談会形式でのトークライブを、「言葉の力を育む」をテーマに実施する。

第 1 部は「幼い子どもとことば」として、谷川氏の作品を紹介しながら、言葉のリズムや面白さなどを楽しんでもらう。

中央図書館では毎週、「言葉の力を育むプロジェクト」として小さなお話会を実施しているが、その映像なども紹介する予定。

第 2 部は中学生を招いて、ゲーム形式で谷川氏とのやり取りを楽しんでもらう。

また、中央図書館を会場として「世界のバリアフリー絵本展」を開催する。これ

までは「一緒に楽しむ」をテーマに、触って楽しむ「布絵本」を展示したり、バリアフリーお話を実施してきたが、これにつなげる取組として、国際児童図書評議会の巡回展示「世界のバリアフリー絵本展 2013」のコレクション 60 タイトルも併せて展示する。会場内の管理には、図書館ボランティアの方々や京都市子ども文庫連絡会にも協力をお願いしている。

布絵本のワークショップでは、針を使わずに布絵本の製作を体験していただくもので、小さな子どもでも参加できる。講師は布絵本作家の大江委久子氏にお願いしている。

年々広がりを見せている「ビブリオバトル」も開催する。今回は小学校 5 年生から高校生を対象に発表者を募集し、ティーンズ大会として実施。

このほか、わらべうたや伝承あそびのコーナーや、各図書館でもおたのしみ会などを実施する予定。

(2) 平成 26 年度予算にかかる取組状況について

今年度から 5 か年計画で実践していく「第 3 次京都市子ども読書活動推進計画」のなかで、図書館改修を行っている。改修内容は二つあり、トイレの整備と児童コーナーの改修。

トイレについては、高齢化や生活様式の変化に対応し、すべての年代層にやさしいトイレであることを目指して、少なくとも各図書館に洋式トイレが男女それぞれ 1 基ずつ設置できるよう、整備を行っている。平成 26 年度は伏見中央、北、東山の 3 館に洋式トイレを設置し、吉祥院図書館のトイレの流れが悪い状況も解消した。

児童コーナーの改修は、第 3 次計画を策定するにあたり、三人の子どもを持つ市民公募の女性委員から「子どもがぐずったり泣いたりするので、図書館を利用しづらい」との意見があり、その課題を解消するために実施するもの。今年度は北、久世ふれあいセンター、吉祥院図書館の改修を行った。

北図書館は耐震工事に併せて実施。床のカーペットをコルクタイルにし、座卓と椅子を設置した。また、書架を移動し、少しではあるが児童コーナーを拡張。以前から使っていた机と椅子を、児童向けのカラフルなものに変更した。

久世ふれあいセンター図書館は京都市図書館の中で最も小さく、他の地域館の 6 割強程度の規模になる。少しでも多くの本を手にとってもらえるようにと、手洗い場と児童コーナー内にあったベンチを書架に変更した。児童コーナーには育児書も併せて配架し、子どもの本を借りに来た保護者が育児書も一緒に借りることができるよう工夫している。

吉祥院図書館では、作業室であった場所を、カーテンで区切れるようにし、授乳スペースを設けた。また従来あった本棚の上に、本の表紙を見せて展示できる

よう、棚を設置した。

これらの改修は来年度以降も随時実施する予定。

3 報告事項に関する質疑応答

意見： 地域館で、折り畳み式のパイプいすを設置しているところがあるが、長時間使用するの是不便なので、クッションなどを置いてはどうか。

意見： 谷川俊太郎トークライブは、中学生との交流とあるが、誰でも参加できるのか。

回答： 誰でも参加できる。申し込みは「いつでもコール」で受付ける予定。

意見： 布絵本ワークショップは定員が 10 名とあるが、子ども連れのカウントはどのようにするのか。

回答： 一組とカウントする。

意見： バリアフリー絵本展は「巡回展」とあるが。

意見： これは各館を巡回するのか。

回答： 中央図書館のみの展示となる。

意見； 児童コーナーの改修は今後も行うとのことだが、いつまでか。

回答： 平成 30 年度までを予定している。

意見： 板の間ではなくコルクタイルになるというのはいいこと。児童コーナーを改修した館ではトイレもきれいになったのか。

回答： 児童コーナーの改修とは別の取組として、トイレの洋式化を実施している。

4 協議事項

＜事務局から協議事項について説明＞

これまでの協議で出た意見、課題について整理し振り返ることで今後に生かしたいと考える。

京都市図書館では、図書館の魅力向上のため様々な取組を行っている。まず図書館サービスの向上としては、乳幼児とその保護者の利用促進のため「乳幼児の保護者用読書ノート」を作成し、図書館のほか各区の保健センター等で配布している。また先ほど説明にあったとおり、児童コーナーやトイレの改修も実施した。

利便性の向上としては、開館時間の見直し、地域図書館の第 2・4 水曜日の開館、年末 12 月 28 日の開館を実施。地下鉄駅への返却ポストの設置やインターネットサービス、音声応答サービス、郵送予約の受付など、図書館に来館しなくても利用できるサービスを充実した。

広報では、年 3 回「京図ものがたり」を発行しており、37 号では「青い鳥号」や児童コーナーの改修、谷川俊太郎氏の特集を組んでいる。

今後の課題として、図書館に来館しなくても受けられるサービスの拡充、例えば郵送貸出の受付、返却ポストの拡充、証明書発行コーナーでの図書館カードの

発行、広報の拡充などを検討している。

図書館機能の充実では、レファレンス機能の充実として、Eメールレファレンスの受付を開始、事例検索も可能となった。

他機関との連携では「青い鳥号」の導入により出前事業の拡充を実施した。導入後約 30 回稼働している。また、これまでの「団体貸出」とは別に「協力貸出」制度を設け、様々な団体への貸出を実施した。

声を掛けやすい雰囲気づくりとしては、コンシェルジュとして案内カウンターへの職員の配置や、フロアワークで利用者とのコミュニケーションを図るといった取組を実施、館内の表示などもわかりやすいよう工夫した。

今後は他都市の事例などを参考に、電子書籍なども検討していきたい。

また、人材育成のため、市図書館内だけでなく国会図書館や府立図書館などの研修にも積極的に参加したい。

今後の方向性としては、20 館が同じようにサービスできるように、地域に根差した図書館としての役割について、また収書の方法についても意見をいただいたが、本日はこれらのことについて議論をお願いしたい。

意見： これまでの意見の中には相矛盾するものも入っているが、いろいろと工夫して実践してもらっている。

回答： 読書ノートについて補足すると、25,000 部作成し、各保育園に配布したが、追加の要望も多数寄せられている。

意見： 使い方は保育園に任せているのか。

回答： 保護者の方に配布してもらっているようだ。

意見： そのままノートだけ渡したのでは使い方などがわかりづらい。意図を伝えたほうがよいのでは。

回答： 来年度以降も引き続き作成するので検討したい。

意見： 北図書館の耐震工事について、自分はよく利用するので再開館したことを知っていたが、知らない方もあったようだ。市民しんぶんには掲載されていなかったか。

回答： 北区版に掲載した。

意見： 図書館のホームページにも掲載されていたと思うが、パソコンを利用されない方にはなかなか伝わらないので、町内の掲示板等を活用されるといい。

意見： 基本書をどの館でも所蔵し、ということだが、基本書の概念を教えてほしい。

回答： 厳密に定義しているわけではないが、分類ごとに幅広く収集するという意味。どの図書館に行っても最低限この程度はそろっている、というもの。

意見： 平成 25 年度の統計をみると、「人口における登録率」は 16 歳あたりで急に低くなり、それ以降、年齢を追うごとに低下している。また、「人口における一人あた

りの貸出冊数」も13歳あたりで急に低くなり、それ以降も低下していき、30代以降で少し回復している。このような状況に対応する施策が返却ポストの拡充や証明書コーナーの活用などの非来館型サービスだが、この措置には、京都市の図書館をあまり利用しない、利用しにくい方々などが読みたくなるような資料の充実と、サービスに関する有効な広報活動が必要だ。

また、証明書発行コーナーでのサービスを行うのであれば、登録だけではなく貸出・返却もできるようにした方がよい。

意見： 高校生の子どもがいるが、圧倒的に府立図書館を利用しているようだ。蔵書面で府立を上回ることは無理であり、また府立図書館との差別化を図るのであれば、高校生や大学生までカバーするのは困難ではないか。

意見： 京都市図書館のポイントは、2km圏内にあるという点。歩けば30分程度の距離。府立図書館とは違い、歩いて行ける場所に図書館があるということをもっとアピールすべきでは。

意見： 高校生は塾や部活で忙しく、開館時間内に図書館を利用するのは無理なようだ。入試制度が変わり、電車で通学する生徒も増えたが、駅の返却ポストは返すためだけのもので、借りることはできない。

駅で貸出ができるというのは読書につながることだと思う。隙間の時間を使えるということを訴えてはどうか。

意見： 高校生が読みたくなる本についてだが、ライトノベルを揃えるというのは大変。蔵書の中にもいい本はたくさんあるので、それらを紹介することが大切なことではないか。

高校生の登録率は50%程あるのに、貸出が他の世代と比較して低いのは、もったいない。

意見： 学校図書館の利用がどの程度あるのか調べてみてはどうか。

中高生は忙しいので図書館へ行くのは難しい。小学生は学区内から出てはいけないことになっている。そのような状況の中で、学校図書館の利用がどのようになっているのか調査しては。

学校と公共図書館との連携についても、学校側から図書館をアピールしてもらえば、いろいろな面で広がりが出る。例えば、学校図書館でレファレンスを受け付けて、図書館から回答するという仕組みを作るなど。

意見： 中学校と図書館の連携は今年度取り組みが広がった。中学生は部活が忙しいので、物理的に図書館に行くのは難しい。不読率が増えることへの対策として、学校図書館の充実に取り組んでいるが、学校図書館が十分使えるようになれば、公共図書館には足を運ばなくなる。学校図書館と公共図書館それぞれを含めた統計を取る必要あるのでは。学校だけではカバーできない部分を、公共図書館と連携するというのは大事なこと。

意見： 学校図書館の統計は把握できているのか。

回答： できていない。

意見： 大学生はすぐにインターネットで調べるが、インターネット検索と図書館で調べることは全く違う。大人が図書館を利用する姿を学生に見せないと図書館で調べることをわかってもらうことは厳しい。

また、レファレンスと関係することだが、インターネットでの検索で出てくる情報のみで、埋もれている情報を拾うことが出来ていない。図書館ではタイトルにキーワードが出てこない資料をどのように探しているのか。

回答： タイトルにキーワードが含まれていないのはよくあることなので、周辺から調べている。また図書館には過去のレファレンスの蓄積があるので、そういった情報を共有している。

意見： 蓄積のある司書と単なる検索の違いが知られていないのはもったいない。司書は検索機とは違うということをアピールしていけばよい。

図書館コンシェルジュはもっと全面に出していいたいと思う。

回答： 貸出やレファレンスのカウンターとは別にあるので、視覚的にも有効。多くの方が利用されているようだ。

レファレンスは千差万別で勘所をつかむまでが難しいのだが、利用者と話をしながら要点を引き出すことができているようだ。

意見： これまでの蓄積は財産だと思う。

意見： 学校では調べ学習が盛んで、調べものに対する意識も高まってきている。もっとアピールした方がよい。青い鳥号もうまく活用しては。

意見： 青い鳥号は市内全域に来てもらえるのか。その際には中央に連絡すればよいのか。

回答： 各図書館に連絡してもらえればよい。

意見： 学校団体貸出は担当館が決まっている。青い鳥号が全館で使えるのか心配する声も多い。全市的に使えることをPRしてもらえれば学校側も喜ぶと思う。

回答： 学校団体貸出は担当館を決めているが、出前事業は各館に頼んでもらえれば対応が可能。

意見： 3年生では「本で調べよう」という単元があり。奥付の見方や出典の見方、情報カードを使ってまとめることなどを教えている。

学校図書館については、蔵書の6~7割が9類の学校がまだあり、調べるための本をいかにそろえるかは大きな課題である。

単元によっては、本だけではわかりづらいものがあったり、同じ本が複数必要であったりするが、すべてを学校でそろえるのは困難なので、そういった面で支援してもらえるとありがたい。

回答： 調べ学習は課題だと思っている。しかし、どの学校も習う時期が重なるため、

一校に同じ本を貸し出すと、他の学校に対応できなくなってしまう。

今年度からは調べもののリストを作成し、学校でそろえる際の参考にしてもらっている。

意見： 学校図書館では、学校になれば公共図書館を検索し、案内している。地元の公共図書館との連携は意識している。学校でもタブレット端末が導入され、本と併用して授業で使うこともあるが、タブレットは表示されたところしか見られないし、その情報が正しいとも限らない。併用することの大切さを伝えるようにしている。まだ初期の段階。今後変わっていくと思う。

意見： インターネットでは情報がフラットに出てくるので、学生は目についたものから見ている。重要度は関係ないようだ。

京図ものがたりは毎回テーマに合わせて本が紹介されており、そこが司書らしい。このような形から入ると、調べものの楽しさがわかるのではないか。

意見： 学校団体貸出は高校が少ないようだ。高校側の事情もあると思うが、京都市内の高校と連絡を取る機会があれば話し合い、対策を検討してはどうか。

意見： 子どもが小さい方もホームページは利用されると思う。京都市図書館のホームページは充実しているとは思いますが、図書館を利用したことのない人に道筋をつけてあげるのも重要。インターネットサービスはまず図書館で登録が必要だが、ホームページ上で登録できるようにしてはどうか。

また、保護者は読み聞かせの大切さを理解しているので、図書館が行っている行事などの情報を積極的にホームページで案内してもいいと思う。

ターゲットをしっかりと絞って、どの部分を伸ばすのか見極めれば伸びていくと思う。

意見： カードを共通して使えるなど、府立図書館との連携ができれば違ってくると思う。今の高校生は調べるのが上手。市内の図書館の本をわざわざ取り寄せたりはせず、同じものが府立図書館にあればそちらに行く。何度も足を運ぶことはしない。

意見： 今は連携していないのか。

回答： 府下の図書館の資料を取り寄せるサービスは行っているが、相互のやりとりは行っていない。

意見： 共通検索はあったと思う。府と市でできるだけ協力したほうがよい。

E メールレファレンスは利用者登録しないと利用できないのか。実績はどの程度あるのか。

回答： 登録されていなくても利用できる。これまで 55 件の利用があった。

意見： (これまでの意見などをまとめた資料の中に) 障害者のある方々への取組が抜けているのではないか。

回答： 大事なことと認識している。次回以降で協議していきたい。

- 意見： 地下鉄駅の返却ポストについて。今後どこの駅に設置するか決まっているのか。
- 回答： 交通局と折衝したが、今のところ、新規の設置についての予定はない。今後も話し合いを続けていく。
- 回答： 右京中央、醍醐中央図書館は駅に直結しており、各館の返却ポストが地下鉄駅のポストの役割を兼ねている。
- 意見： 改札を出ないと投函できないのか。
- 回答： 市役所前駅のポストは改札内からも投函できる。
- 意見： 増設されるのであれば、是非中からも投函できるようにしてほしい。
- 意見： 館内表示について、外国語の表示や絵での表示を考えているか。
- 回答： 英語の簡単なパンフレットは用意している。館内表示についてはまだ。東京都立図書館などでは実施されているようだが、職員がその言語に対応できるかといった問題もある。国際交流会館との連携も含め今後検討していきたい。
- 回答： 観光施設などでは多言語での表示は重要だが、図書館の役割は少し違うかもしれない。外国語の本もあまり利用されていないようだ。外国人の方々は、おそらくあまり利用されていないのではないかと思う。
- 回答： 外国語の本は、多言語に触れたり、外国語学習に用いたりといった意味もあって所蔵している。岩倉図書館の「多読コーナー」は多くの方が利用されており、他都市からの視察もある。
- 意見： 絵で表示すると、外国人の方も含めだれにでもわかるので、是非検討してほしい。
- 意見： 外国語の本には中国語などもあるのか。
- 回答： 少しだが所蔵している。
- 意見： 本を読むスタイルとして、図書館内の雰囲気づくりについても話が出たと思う。右京中央は開放的な雰囲気。中央図書館も隣に別の施設がある。
- 回答： 醍醐中央図書館は商業施設の中にあり、飲食店なども入っているが、そのほかの図書館は住宅地の中にある場合が多く、機能としては限られている。
- 意見： ゆったりできるスペースというの必要なのでは。
- 意見： 吉祥院図書館は車の出入りが気になった。安全対策面での点検が必要では。
- 回答： 久世ふれあいセンター図書館の児童コーナー改修で手洗いコーナーをなくしたのだが、これについて意見を聞きたい。
- 意見： 確か児童コーナーの近くにトイレがあったと思う。
私事であるが、なぜ調べるのかということについて。調べるたびに次の発見がある。最近の学生はレポートを作る場合にコピーペーストで済ます場合もあるが、実際に本を読めば興味がわいてくる。すると手を洗ってから本を読むという態度につながってくるのではないか。
- 回答： 馬を水飲み場まで連れてくることはできるが、水を飲ませることはできない。

手段を尽くすだけでなく、図書館がある程度のリーダーシップと取るべきか。ぜひ皆さんにお聞きしたい。

意見： 多少おせっかいでもいいと思う。

意見： 学校では朝読書をしているところが多い。自主性・主体性を育てるため、本は子ども自身で選ぶようにしている。無理に本を読ませることはかえって逆効果になるのではないか。読む本は自由で、読むことの面白さがわかれば思考を育てることができるし、面白さを知ればそれは一生続く。いろいろな機会を捕まえるしかない。無駄だからとやめるのではなく、繰り返し読書の面白さや重要性を伝えていくことが大切ではないか。

回答： 「良い本」のセレクトは図書館側で行い、リーダーシップをとるべきではないか。

意見： その「良い本」のことだが、子ども達は大人の薦める「良い本」を避け、意外な本を選ぶことがある。大人の選ぶ「良い本」について、考え直すことも必要だと思う。

意見： 地域に根差した京都市の図書館の役割としては、多少おせっかいが必要では。お互いが何度もやり取りをするしかない。

意見： 以前から要望しているが、学校団体貸出の申し込みをメールで受付けて、メールカーで配送するというサービスを取り入れてほしい。千葉県市川市や長野県茅野市で実施されており大変便利。市の規模が違うことは承知しているが、更に連携を深めるうえでもぜひお願いしたい。

意見： こどもみらい館は大変いい施設だと思う。下の階（遊びのスペース）に来られた親子連れに図書館に来てもらい、それをきっかけに他の図書館の利用につなげることもできると思うので、是非活用してほしい。

意見： この2年間で図書館について見直した。

意見： 今回で最後となるが、図書館についていろいろ考える機会となった。本日の意見や提案を、今後の図書館運営に反映していただけるようお願いする。